

## 都農中だより「桜梅桃李」発行によせて

中学校の学校通信「桜梅桃李」を令和6年度6月より発行いたします。桜梅桃李とは、中国に古くから伝わる言葉です。桜には桜の良さがある、梅には梅の良さがある、桃には桃の良さがある、そして李（スモモ）には李のよさがある、転じて、他人と比べることなく、自分自身を磨くことが大切だという教訓を含んだ言葉です。都農町のオンリーワンの学校である、都農中学校のよさを築くために、私たち職員が、何を目指し、どのようなことを子どもたちと行っているか、保護者や地域の方に向けてお伝えしたいと思い、この「桜梅桃李」を発行いたします。拙い言葉できちんと伝えられるか分かりませんが、そのすべてをお伝えすることもできませんが、ご一読いただければ幸いに存じます。

なお、普段の学校の様子については、ホームページでも随時お伝えしております。ぜひ、そちらもご覧ください。ホームページのアドレスは、[https://cms.miyazaki-c.ed.jp/4538/?page\\_id=0](https://cms.miyazaki-c.ed.jp/4538/?page_id=0)です。右の二次元コードからもアクセスできます。最近では、中学校総合体育大会の結果、生徒会活動の様子、学校運営協議会の様子など、1分足らずで読めるように構成しています。学校行事の予定等も確認できます。どうぞ、よろしくお願いいたします。



## 権利の条件や原則

都農中学校は、「令和6年度いじめ未然防止に関する取組推進校」に指定されています。推進校においては、生徒が主体となった、いじめの未然防止の多様な取組を実施し、県内の各学校に紹介する役割があります。その一環として、本校では、令和6年5月27日（月曜日）から5月31日（金曜日）まで、人権週間を設定し、毎日、1時間の人権に関する全校一斉授業を実施しました。また、帰りの会では、1日の振り返りやお互いの人間関係づくりのためのグループエンカウンターを行いました。授業は、生徒会執行部の生徒と打合せ、オンラインによる進行で生徒に行ってもらいました。教師は、主に教室で生徒の活動を支援しました（ホームページにも次のタイトルで紹介しています。「人権週間」「人権週間2日目と3日目」「人権週間4日目」「思いやりのある学級にしよう」）。全校一斉の授業では、最後に、人権担当の教員や管理職が全校生徒に向けて講話を行う場面があり、その中で、教頭が権利の条件や原則を3つ紹介しました。

1つ目は、「**権利は、ルールを守り、人に迷惑をかけないという条件で主張する**」というお話です。例えば、授業中に、勉強したい人と遊びたい人がいて、遊びたい人が「私には遊ぶ権利があるから遊ばせろ」と発言したとします（以前は、いろいろなことがあったと聞きますが、今の都農中に、このような生徒はおりません）。しかし、この主張は通らないわけです。なぜなら、授業は、勉強をするための場所であり、勉強しなければならないというルールが存在するからです。他にも、先生が話をしているときは前を向いて静かに受ける、私語をしない等のルールが設定される場合もありますが、これらのルールは、すべて、勉強する権利を守るためのルールです。勉強をしたいと思っている人が一生懸命に集中して授業が受けられるように、勉強したい人の権利が奪われないようにするためのルールです。授業は、勉強をしたい人が最優先されるべき場所ですから、「遊ばせろ」などという主張は受け入れられないことになります。いずれにしても、ルールを守った上で、人に迷惑をかけないという条件の下で権利を主張することが大切であるという話をしました。



2つ目は、「**今得ることのできる権利は、永遠ではない**」というお話です。今はあるけど大人になると失う権利や、逆に、大人になってやっと手に入れることのできる権利というものがあります。例えば、部活動や勉強をする権利は、中学生にはありますが、大人になり働き始めると、ほとんどの大人が失います。働く大人に中学生のような部活動や勉強する時間はないからです。中学生の間にしかできないことは、中学生の間にしっかり頑張り、大人になってできることは大人になってすればいいわけです。中学生の時期にしか経験できないことを十分に堪能しないまま大人になるというのは、人生においてはもったいないことであり、中学生のうちに一生懸命に取り組むことのできない勉強をする権利や部活動をする権利を大切に、毎日の生活を送ってほしいという話をしました。



3つ目は、「**私たちの権利はだれかの助けなしに得ることはできない**」というお話です。例えば、高校生のA君が、家でこんなことを言いました。「俺は、家で勉強しない。俺は、勉強したくない。そして、俺には遊ぶ権利がある。俺は自由になる権利がある。」するとお母さんも言います。「そうね。じゃあ、私も自由になる権利があるので、あなたにご飯つくりません。私も、自由に生きます。」A君は次の日から、ご飯を作ることにしました。A君は買い物に行こうとしましたが、お金がないので、「母さん金をくれ。」とお願いました。でも、お母さんは「お金をあげることはできません。お金をあげる、あげないは私の自由です。あなたが、勉強するというのであれば話は変わりますが。」と言いました。それで、A君は「わかった、だが俺は自由になりたいので自分のお金は自分で稼ぐ。」と言いアルバイトをすることになります。そこで、得たお金で、ご飯を買って食べました。ここまで来て、A君はあることに気がきました。それは、アルバイトをして働かないといけないので、遊ぶ権利を失ったということです。ついでに、勉強する権利も失ったということです。ちょっと極端な例でしたが、部活動ができるのも、勉強ができるのも、遊べるのも、家族や先生、地域の方々などの支えがあるからであり、生徒の皆さんが得ることのできる権利は、多くの人の支えがあって実現できているということを忘れないようにしてほしいし、いろいろな方への感謝の心を忘れないようにしてほしいという想いで話をしました。



生徒の皆さんが、どれほど理解できたかは分かりませんが、よりよく生きるために、私たちに与えられた権利をどう享受していけばよいかという話をしました。これ以外にも、差別やいじめに関する話をたくさんしました。

今の時代は、子ども達に考えさせることや、気づかせることが主流で、そのために、様々な教材や時間を準備しています。しかし、それにより、教師の語る場が減ることがないようにしたいと考えています。都農中では、教師の想いも、生徒の皆さんに、しっかりと伝えていけるようカリキュラムを設計したいと考えています。

なお、人権週間の帰りの会では、本校の人権宣言の中にある「助け合い」「教え合い」「認め合い」「励まし合い」「分かち合い」について、それぞれの気持ちを忘れずに生活できたかアンケートを取りました。95%以上の生徒が「できた」と答えていましたが、実際には、人権週間の最中や、その後も、人間関係のトラブルが起っています。学校現場とは、そのような場所ですが、これからも、自己満足に陥ることなく、めげずに、反省を繰り返し、教師としての想いを語り続け、邁進していきたいと考えています。

## 学校運営協議会と地域創生

6月6日、令和6年度第1回学校運営協議会が行われました。学校運営協議会には、「校長が作成する学校運営の基本方針を承認する」「学校運営に関する意見を教育委員会又は校長に述べる」「教職員の任用に関して、教育委員会規則に定める事項について、教育委員会に意見を述べる」といった役割があります。6月6日の学校運営協議会では、校長が作成する学校運営の基本方針が承認されました。なお、承認された本校の学校経営案についてはホームページに掲載しておりますので、ご一読いただければ幸いです。アドレスは、[https://cms.miyazaki-c.ed.jp/4538/page\\_20240614052630](https://cms.miyazaki-c.ed.jp/4538/page_20240614052630)です。右の二次元コードからもアクセスできます。



次に、学校経営案や昨年度の学校評価を基に、学校の課題やテーマについて意見が出され、今後、次の3つのテーマについて熟議及び実践を積み重ねていくこととなりました。

- ・ 都農中学校の魅力づくりとその発信
- ・ 生徒と教師と保護者の意識の差異の分析とその解消
- ・ 学習意欲と学力の向上

今回は、この中から、「都農中学校の魅力づくりとその発信」に関することをお話いたします。

さて、都農町における課題の一つに人口減少があります。学校運営協議会には、坂田広亮都農町長もお見えになりましたが、町長のお話の中にもこの人口減少、少子化といった都農町の課題があげられていました。ご存じのとおり、人口減少は、地域の衰退を導きます。このことを、生徒はなかなか理解できないので、例えば、次のように説明しています。

人口減少は地域の商業施設の利用者数の減少に直結するので、スーパーの存続が難しくなっていきます。今ある都農町の居酒屋、焼きとり屋等の飲食店も同様です。いろいろな消費サービスが町から消えます。そうすると、住みにくい町になるので、新たな住民は増えません。住民が増えないということは高齢化が加速されることにつながります。高齢者が増えれば、社会保障関係経費等が増加し、新たな施設やアイデアへ投資する資金はなくなります。そうすると、さらに、公共施設・インフラの老朽化への対応等が難しくなり、全般的に行政サービス（道路や体育館の整備、公園の整備等）の低下も招きます。そして、ますます住みにくい都農町になることが考えられます。

日本全国の人口が減少していることを考慮すると、都農町の人口減少を食い止めることはできません。それでも、減少率をできるだけ緩やかにしていき、人口減少に耐え得るまちづくりを同時に行っていくことが肝要であろうかと思えます。

人口減少を食い止めるために学校でできることの一つが、**郷土愛を育む教育の推進**です。都農町への郷土愛が育まれていない子どもは、将来、都農町が衰退し住みにくくなると、都農町を去ってしまう可能性が高いからです。そうならないように、都農町が好きだ、都農町に貢献したい、都農町のために何かできないか、都農町に住みたい等という気持ちを子どもたちに醸成したいと考えています。

郷土愛を育むために、都農中学校では、都農神社夏祭り等都農町の行事への参加、(株) イツノマ様の協力を得て行う都農町をより活性化していくための提案と実践、都農町での起業体験等、都農町のために何ができるか具体的に考え実践するカリキュラムを提供しています。そのような取組を得て、生徒の自己評価ではありますが「現在及び将来【都農】のために役立つことをしたいと思う」と答えた生徒が75%と大変高くなっています。この数値は、全国的な調査において、他校よりも高い値になっています。

しかしながら、町外の県立・私立中学校に入学を希望する児童や保護者が増えているのも事実です。町外の中学校に入学すると、都農中学校で行っている郷土愛を育む教育を提供することはできませんので、できるだけ多くの都農町内の小学生に、都農中に入学してもらえるように、都農中の魅力をさらに創出し発信していきたいと考えます。

これらのことから、「都農中学校の魅力づくりとその発信」がテーマの1つに設定される運びとなりました。まずは、都農町内の小学校の児童の皆さんに、都農中のよさを発信したいと考えています。

## メンタルヘルス

メンタルヘルスがよいかどうかのチェックポイントは3つあります。「自己嫌悪が少ないこと」「他者非難が少ないこと」「人生全般に対して恨みが少ないこと」です（以下、故國分康孝元日本カウンセリング学会会長のコラムを一部引用しています）。

1つ目の自己嫌悪が少ないというのは、自分はダメな人間だというイメージが少ないという意味です。「自分は他者よりも劣っている」「自分はたいしたことない」といった感情が少ない人がメンタルヘルスのよい人です。言い換えれば、あるがままの自分を受け入れている状態がメンタルヘルスのよい状態です。「アイアムオッケー」と、自分を受け入れることができる人は心理的に健康な人です。

2つ目の他者非難が少ないというのは、人にはそれぞれ事情があり、世の中は自分のためだけにあるのではないということを認識している人です。しかし、残念ながら、甘やかされて育った子供は、周りの人が自分のために動いてくれてあたりまえと思ってしまうので、自分の思った通りにならないと腹を立てます。何かあっても、親が助けてくれるので、親に、自分の周りに起きている不平不満を言い、親はそれを心配して手助けをします。しかし、年齢を積み重ねるほど、自分の思った通りにはならないし、親も手助けできなくなるので、最終的には、人のせいで自分はこうなったと不平不満家になります。そういう人は、メンタルヘルスの悪い人です。逆に、周りの人に感謝できる人はメンタルヘルスのよい人です。

3つ目の人生全般に対して恨みが少ないというのは、世の中のすべての人や自分のまわりで起こったこと等に対して恨みをもつことがほとんどないということです。人生否定的、人生憎悪の人が世の中にはいます。ある一つの出来事（人に裏切られた、バカにされた等）を一般化し、人はすべて信用できない、全ての人が私を受け入れてくれないと思い込み、世の中に価値を見出せない人がいます。そのような人はメンタルヘルスの悪い人です。

3つを総合すると「アイアムオッケー」「ユーアーオッケー」「ゼイアーオッケー」と3拍子揃っている人がメンタルヘルスのよい人です。メンタルヘルスのよい生徒を育成できるように、日々の都農中学校の教育活動を展開していきたいと考えていますが、これが、なかなか難しいです。

人間はすべて善でもあり、悪でもある。極端はほとんどなく、すべて中途半端だ。（アレキサンダー・ポープ：ギリスの詩人）



## 都農中の魅力発信

都農中学校で、どのような教育活動が行われているか、その魅力の概要をまとめたパンフレットを作成しました。中学校の各ご家庭には1部ずつ配付いたしました。また、地域のみなさまにおかれましては、回覧板で、この都農中だより“桜梅桃李”と共に閲覧していただけるよう配付しておりますので、ご一読していただけると幸いに存じます。今回は、その都農中学校紹介パンフレットについてお話しします。

まず、表紙にある“Tsuno Spirit !”。直訳すると都農魂です。都農町や都農中生として生きる誇り、都農町や都農中の旺盛な気力を込めた言葉です。その下にある、「未来を切り拓き 豊かな心で たくましく 都農で生きる」という言葉は、学校の教育目標である「故郷を愛し 未来を切り拓く 心豊かでたくましい 生徒の育成」に倣っています。校舎の前で、元気にはしゃぐ生徒の姿の写真に、今現在の都農中の生徒の雰囲気がよく表れています。

「都農中で充実した学習に取り組める！」の欄に、“タブレットPCとスタディサプリの利用”“つの未来塾”“宮崎大学生とのサマースクール”“少人数指導”“英語検定2次対策と助成金制度”を紹介しています。都農中学校は、まだまだ学力の向上が期待できる生徒が多いという特徴があります。しかし、都農中の生徒は、何を勉強すればよいか分からない、勉強に対する意欲が低い、自分の学力の状況を客観的に認識できない等のいくつかの課題がありました。そこで、都農町教育委員会の協力を得て“スタディサプリ”というデジタルツールを導入しました。“スタディサプリ”は、基礎問題から応用問題まで幅広く取り組み、動画による解説も付いており、先ほど挙げた都農中の生徒の課題に対応すると共に、生徒の学力向上への効果が期待できるツールです。“スタディサプリ”を導入してから、生徒の自宅での学習時間も増加傾向にあります。

“つの未来塾”は、その名のとおり塾です。講師は、東京大学を卒業された吉良倫太郎さんです。“宮崎大学生とのサマースクール”も、夏休みだけ開催される短期間の塾です。宮崎大学の教育学部数学科の学生が多数来校し指導してくれます。ところで、塾には大きく分けて学習塾と進学塾があります。学習塾は、主に、教科ごとの弱点を補強して基礎力を上げるための塾です。学習習慣を身に付ける効果もあります。一方、進学塾は、自分が行きたい高校や大学の進学を目指し、自分の志望校に合わせたレベルの問題を教えてもらえる塾です。成績でクラス分けがされていることが多いです。“つの未来塾”と“宮崎大学生とのサマースクール”は、どちらかと言えば学習塾の性質もっています。10人未満の生徒に対し、指導者1人以上で指導を行いますので、生徒個別に対応した、効果的な学習指導を展開できると考えられます。

次に、授業における“少人数指導”についてです。クラスの人数が多くなると、生徒個別の学力に対応することが難しくなるので、多くの学校で数学や英語の授業については、二つのグループに分けて指導を行っています。本校でも、個別指導の充実を図るために、英語と数学の授業については、クラスを2つのグループに分けて指導を行っています。または、グループに分けずに、1つのクラスの授業を2人の教師（ティーム・ティーチング）で行っています。

“英語検定2次対策と助成金制度”における英語検定2次対策は、本校ALTの中瀬アンジェリーナ先生が行います。なお、英語検定（漢字検定も可）には、1回のみ、1,000円の助成金を都農町から補助してもらうことができます。

これまでに紹介した、“タブレットPCとスタディサプリの利用”“つの未来塾”“宮崎大学生とのサマースクール”“少人数指導”は、ご家庭でそのための費用を別途準備していただくことなく、その恩恵を得ることができます。また、先ほども述べましたが、英語検定と漢字検定については、助成金を受け取ることでできる制度があります。これらのことから、都農町の子育て支援の尽力により、都農中学校には、優れた教育環境が整っていると言えます。

しかし、これだけではありません。実は、都農中の特筆すべき点は、都農中で未来をたくましく生きる人になるために、実施されている“つの未来学”“まちづくり部”“ジュニアリーダー”等です。これらは、すべて、地域の企業や都農町教育委員会社会教育課が主体となり行われているものです。詳細は、パンフレットに書いていますが、例えば、“つの未来学”では、実際に、生徒自身のアイデアを具現化し起業するという体験ができます。学校では、持続可能な社会づくりのための課題解決に必要な「7つの能力・態度」を身に付けることが求められています。それは、【批判的に考える力】【未来像を予測して計画を立てる力】【多面的・総合的に考える力】【コミュニケーションを行う力】【他者と協力する力】【つながりを尊重する態度】【進んで参加する態度】です。“つの未来学”では、これらの力を培うことができます。このようなカリキュラムを構築するのは、正直、私たち教師だけでは難しいです。この取り組みを企画され、実現にこぎつけたこれまでの（株）イツノマのみなさま、都農町役場のみなさまのご協力に頭が下がります。“つの未来学”の経験を通して、生徒のみなさんは、きっと、将来、臆することなく自分の力を主体的に社会で発揮してくれるものと期待しています。都農町で発揮してくれる生徒もいると思います。

また、パンフレットには“都農神社夏祭”“新しい制服”“チーム担任制”“カウンセリング”“フォーサイト手帳”について紹介しています。特に、伝統行事である“都農神社夏祭”に、当事者として関わることができるというのも、都農中の大きな魅力の1つです。中学生の参加においては、都農神社を始め、多くの地域のみなさま、保護者のみなさまのご協力をいただいております。生徒は、そのような、地域の大人の魅力的な姿を実感することで、都農の誇りを培っていると思います。生徒数が減り、伝統行事の継承が不安視されていますが、様々な工夫と、多くの人々のボランティア精神で、コロナ禍を乗り越え、ここまで継承されてきています。今後も、持続可能な祭としていくための工夫を重ね、祭に参加させていただきたいと考えています。

その他、パンフレットに書かれていること以外にも、“給食費無料制度”“栄養教諭による専門的な食物学習の実施”“滞りなく行事を実施できる大きな運動場や体育館”等、都農中学校にはたくさんの魅力があります。この魅力が、たくさんの方々には伝わればと思っております。また、パンフレットの最後に、生徒会の生徒が小学生に向けてメッセージを送っています。このメッセージが小学生に届くことを願っています。

最後に、今後も、都農中の魅力を持続するだけでなく、新たな魅力を生み出すことができるように、都農町教育委員会をはじめ都農町役場のみなさま、保護者のみなさま、そして、都農町に住んでいらっしゃる地域のすべてのみなさまのご協力を得ながら、教職員一同、努力していく所存です。どうぞよろしくお願いいたします。

美しい花を咲かせ続けるには、停滞することなく、変化し続けなければならない。（世阿弥：室町時代初期の猿楽師。父は観阿弥。）

まだまだ暑い毎日ですが、みなさま、いかがお過ごしでしょうか。学校は、8月末の台風により、土日はさんで5日遅れの2学期スタートとなりました。この度の台風による被害が、都農町にでているとうかがっております。お見舞いを申し上げますとともに、一日も早い復旧を心からお祈り致します。

## Instagramをはじめました

令和6年9月9日の第2回学校運営協議会で、都農中学校の魅力を発信するためには、「ホームページ」「学校通信<桜梅桃李>」だけでは不十分であり、「Instagram」を始めてはどうかというご意見がありましたので、早速、都農中の公式Instagramを開設しました。右の二次元コードからアクセスできます。URLは、<https://www.instagram.com/tsunochuu/>です。内容は、ホームページにアップする内容と同じになりますが、どうぞよろしくお願いいたします。



## 都農中学生の都農町への思い

都農町に対して、生徒がどのように思っているか簡単なアンケートを取りました。また、生徒の都農町に対する思いに、保護者や教師が気付いているのかを明らかにするために、保護者には「ご自分のお子様がどう答えると思うか」、また、教師には「生徒の何パーセントが肯定的な意見を述べると思うか」という観点でアンケートを取りました。

アンケートの項目は下の通りです。

- 質問 1 (都農町のことが好きである。)  
質問 2 (都農町の良い所が言える。)  
質問 3 (将来も都農町に住みたい。)  
質問 4 (もし都農を離れても、いつか都農に戻って都農で残りの人生を過ごしたい。)  
質問 5 (都農町よりも住みやすい町があれば移住したい。)  
質問 6 (都農町を良い町にするために努力したい。)  
質問 7 (都農町のために自分に何ができるか、今、考えている。)  
質問 8 (これまでに都農町のためになることを行った経験がある。)  
質問 9 (将来、都農で会社をつくりたい。)  
質問 10 (都農町をもっと良い町にするためのアイデアがある。)

アンケートの正確二項検定 (<https://ja.wikipedia.org/wiki/%E4%BA%8C%E9%A0%85%E6%A4%9C%E5%AE%9A>) から、**生徒、教師、保護者の差異**について次のことが明らかとなりました。

- 「もし都農を離れても、いつか都農に戻って都農で残りの人生を過ごしたい。」と考えている生徒の人数が有意に多いが、生徒がそう考えていることに気付いていない保護者や教師が多い。  
○ 「都農町を良い町にするために努力したい。」と考えている生徒の人数が有意に多く、教師もそのような生徒は多いと思っているが、その気持ちに気付いている保護者が多いとは言えない。

生徒は、大人が思っている以上に、都農町が好きで、都農町に住みたいと思っていることが明らかとなりました。アンケートをもとに**生徒の特長**をまとめると、次のことが言えます。

都農町のことが好きで、都農町の良い所が言える生徒が多い。もし都農を離れても、いつか都農に戻って都農で残りの人生を過ごしたいと考えている生徒が多い。また、都農町を良い町にするために努力したいと思っている生徒が多い。都農町で会社を起業したい生徒が36人、アイデアがある生徒が72人おり、将来の都農町の未来を背負う人づくりは進展している様相が伺える。

アンケートを通して、私たち大人が、子供たちの想いにこたえてくことも大切だと思いました。

学校では、総合的な学習の時間を中心に郷土愛をはぐくむ教育を推進しています。子供たちの都農町への愛が、これからの都農町の町づくりに発揮されることを祈念しています。

自分が生まれ、育まれた家庭を愛する心は全く自然の感情であり、美しい心である。また自分が生をうけ、生活している郷土を愛し、国を愛するのは、これまた自然の心であり、理屈ではない。祖国を愛する心を持つ国民に満ちた国ほど将来の繁栄が約束されるものである。(実業家 倉田主税)

## 2学期の主な行事

9月18日～9月20日	2年生職場体験学習	10月19日	都農中学校吹奏楽部定期演奏会
9月19日	3年生みちくさ市出店	10月28日～11月1日	都農中オープンスクール
9月27日～	西都児湯地区中学校秋季体育大会	10月31日	合唱コンクール
10月6日	体育大会 ※順延の場合は10月8日	12月24日	2学期終業式

ずいぶんと涼しくなりましたが、みなさま、いかがお過ごしでしょうか。本校の生徒の皆さんは、体育大会、合唱コンクール、部活動の地区大会や県大会、吹奏楽部定期演奏会、ロボコン、絵馬制作と充実した毎日を送っています。

## 宮崎県PTA連合会団体表彰

### これまでの都農中学校のPTA活動が、宮崎県PTA連合会より表彰されることになりました。

現在、都農中学校におけるPTA活動については、PTA会長を中心に運営されており、PTA副会長が会議の進行や全体の調整等を行っています。役員として、PTA会長・副会長の他、書記、会計があります。また、理事として、1学年委員長、2学年委員長、3学年委員長、専門部の部長（研修広報部長、保健体育部長、生徒指導部長、事業部長）の役職があり、それぞれの担当分野の業務を遂行しています。また、すべての教職員、保護者が、いずれかの専門部に所属し活動しています。

会議としては、役員理事会、合同専門部会、PTA総会が定期的に行われています。それぞれの会議や専門部の活動により、学校行事やPTA主催のイベントの計画・実施、学校設備の改善、地域の行事における共同作業、PTA新聞作成、家庭教育学級を通しての教育や子育てに関する情報提供、地域の団体や行政と連携したプロジェクト推進、ボランティア活動、学校行事のサポート、保護者同士の交流を深めるためのイベントや活動の企画等、多種多様な活動実績を毎年のように上げてます。

特に、表彰における実績顕著な事項として、日向国一之宮都農神社夏祭に、地域の関係者（卒業生の保護者）と本校PTAが連携し、生徒が祭の御神輿担ぎ、太鼓台担ぎ、太鼓台の装飾等の企画や運営に毎年参加していることがあげられました。この日向国一之宮都農神社夏祭に関する取組が、毎年恒例行事として定着しているのは、PTAの継続的な支援によるところが大きいです。日向国一之宮都農神社夏祭のために、毎年、夏祭実行委員会が立ち上げられており、令和6年度は、夏祭実行委員会が3回開催されました。第3学年の保護者から選出された夏祭実行委員長を中心に、夏休み中の練習・装飾計画、救護計画、飲食物購入計画等、入念な意見交換と地域の有志（元本校PTA）との連携により、滞りなく行事が遂行されています。

生徒は祭に参加するだけでなく事前学習を通して、リーダーシップやチームワーク等のスキルを培っています。また、都農町の文化や伝統に関する学びを深めるだけでなく、郷土愛を育んでおり、地域に関するアンケートでは、ほとんどの生徒は都農町が好きであると答えています。また、都農町の好きなところの1つに祭を挙げている生徒も少なくありません。

保護者、地域、教職員、生徒が協働で祭の準備や運営を行うことで、相互の信頼関係が深まり、学校全体の一体感が高まっています。また、学校と地域社会の連携が強まっています。生徒が祭に参加することで、祭の魅力が増している様相も伺えます。加えて、PTAが安全管理をサポートすることで、祭の運営が安全に行われています。

これらのことから、夏祭り実行委員会の継続的な運営、地域との継続的な連携が顕著であり、生徒の資質の向上に関与していることが認められ表彰されることとなりました。

これもひとえに、これまで都農中学校を支えてくださった、すべての保護者のみなさまのおかげです。本当にありがとうございます。心より感謝し申し上げます。

## 都農中生の自転車乗車時におけるヘルメット未着用問題

本校の生徒については、ヘルメットを着用せずに休日や登下校時に自転車に乗っている生徒が少なくありません。他校と比べても、その状況は悪いようです。地域の方からもヘルメットを着用していない生徒の情報を電話でたくさんいただいています。その都度、生徒に指導をし、注意喚起を促していますが、状況が改善されません。多くの学校では、ヘルメット未着用違反があると、自転車による通学を一定期間禁止したり、自転車登校を取り消したりする罰則を設けていますが、本校にはそのような罰則がありません。ヘルメット着用が努力義務となったのは2023年の4月ですが、ヘルメット未着用の自転車運転については、反則金等の罰則はありません。これに準じて、本校でもペナルティは特に設けていません。しかしながら、当然、事故におけるケガや後遺症の重症化を防ぐためには、ヘルメットを着用することが肝要ですので、口頭により指導は行っています。

文部科学省からも、「自転車等の安全利用促進に向けた都道府県警との更なる連携強化について」周知依頼があり、その中に、“自転車利用時のヘルメット着用について、定着に至っていない状況が見られ、警察と連携した継続的な取組を推進することが重要である。”との通達がありました。学校でもさらに繰り返し指導をしていきたいと考えていますが、保護者や地域の皆様にも、ぜひ、登下校中の自転車通生について、ヘルメットをかぶっていない生徒がいれば、注意を促していただければ幸いです。保護者、地域、学校の三位一体となった取組により、生徒の安全を確保したいと願っております。

ところで、「自転車を運転するときはヘルメットをかぶったほうが良い」とヘルメットの重要性は分かっているのに、ヘルメットをかぶらない生徒が少なくありません。同じように、勉強しないと理想とする進路を実現できないから勉強をしないといけなさと分かっているのに、勉強しない生徒も多いです。あいさつも同じで、生徒に聞けばほとんどの生徒が「大きな声であいさつをすることは大切である」と答えますが、大きな声であいさつできる生徒は思ったほど多くありません。教師をしていると、生徒を通して、分かっているけどできない、ペナルティがないとルールを守らないという人間の弱さを実感します。

なかなか難しいことですが、職員一同、これからも、正しいことを考え、ちゃんと実行できる、自分に負けない生徒を育成していくために、指導を積み重ねていきたいと考えています。

日に日に寒さが増す今日この頃です。みなさま、ご自愛ください。生徒の皆さんは、2学期になり、体育大会、合唱コンクール、部活動の地区大会や県大会、吹奏楽部定期演奏会、ロボコン等を通じて、さらに、大きく成長しています。

## Instagramの「いいね」ボタンと承認欲求

都農中学校のInstagramを始めて、2か月が過ぎました。最近になって、「いいね」ボタンという機能を知りました。Instagramを見てくれた人が「いいね」ボタンを押してくれると、ハートマークの数字が増えていくという仕組みになっています。

現代社会では、SNSの普及により、他者からの「いいね」や称賛のコメントで承認欲求を満たす人が増えているようです。人間は生きている限り、他者との関係性の中で自然と承認欲求を持ちます。しかし、承認欲求が過度に強くなると、他者の評価を過度に気にするようになります。心理学の研究には、この過度な承認欲求が、個人の精神的な健康に影響を与えるという報告があります。例えば、承認欲求が過度に強くなると、自己中心的になったり、他人の期待に応えようと無理をしすぎて心身を壊してしまったりすることもあります。学校のルールを無視して、自分勝手に、髪を染めたり、アイプチをしたり、制服を着崩したり、眉毛をそったりする中学生が社会にはたくさんいます。これらの行動は、承認欲求の一種であり、「私を見て?」「私変じゃないでしょ?」「私イケてるでしょ?」といった気持ちの表れです。学校では、生徒に「自分自身を肯定し、他人との比較をやめよう。君は君でしかないだろう。」といった話をします。他人と比較するのではなく、今の自分を受け入れることが、社会でたくましく生きていくために重要だからです。

自己肯定感と承認欲求のバランスは幼少期からの家庭教育が大きく影響します。中学生になってから、その内面を大きく変えることは難しいのですが、それでも、私たち教師は「自分自身を肯定し他人との比較をやめ正しく生きる力」を育むために日々努力を続けています。

## これまでの都農中生の活躍

最近、ロボットコンテストに参加した生徒の皆さんが県大会で優勝し、その様子がテレビで放映されました。それ以外にも、都農中学校の生徒の皆さんの努力が実を結び、さまざまな場面で表彰されています。

ここでは、令和6年4月～11月までに3位以上、入選以上で表彰されたものを時系列で紹介します。

大会・コンクール名	順位等	大会・コンクール名	順位等
第46回全国海の子絵画展	全漁連会長賞	地区秋季 バレーボール競技 女子	3位
第4回宮崎産業宮崎産業経営大学CUP バスケットボール大会女子	優勝	地区秋季 軟式野球競技	3位
第4回宮崎産業宮崎産業経営大学CUP バスケットボール大会男子	3位	地区秋季 剣道競技 男子個人	3位
第36回都農町/バドミントン大会 ダブルスA	2位	地区秋季 剣道競技 男子団体	3位
第36回都農町/バドミントン大会 ダブルスB	優勝	地区秋季 陸上競技 2年男子3000m	優勝
第36回都農町/バドミントン大会 ダブルスB	優勝	地区秋季 陸上競技 2年男子1500m	2位
令和6年桜まつり弓道大会男子の部	優勝	第75回西都児湯地区中学校総合体育大会 駅伝競走男子	3位
令和6年桜まつり弓道大会女子の部	2位	第75回西都児湯地区中学校総合体育大会 駅伝競走男子	区間賞
西都児湯地区練成会 女子団体の部	優勝	第75回西都児湯地区中学校総合体育大会 駅伝競走女子	区間賞
西都児湯地区練成会 男子団体の部	3位	第48回宮崎県中学校秋季体育大会 柔道競技 個人戦70kg級	優勝、3位
西都児湯地区練成会 3年女子個人の部	2位	第36回宮崎県中学生夏季バドミントン大会女子シングルスCブロック	3位
西都児湯地区練成会 2年女子個人の部	優勝	第37回都農町/バドミントン大会 Aクラス シングルス	2位
西都児湯地区練成会 2年女子個人の部	3位	第37回都農町/バドミントン大会 Bクラス シングルス	優勝
西都児湯地区中学校総合体育大会剣道競技男子団体	2位	梅田学園旗争奪第21回 MRT 西都児湯地区中学生新人軟式野球大会	2位
西都児湯地区中学校総合体育大会剣道競技女子個人	3位	第16回全日本少年春季軟式野球大会	2位
西都児湯地区中学校総合体育大会/バドミントン競技男子個人シングルス	2位	西都児湯地区練成会弓道 女子団体の部	3位
西都児湯地区中学校総合体育大会 陸上 1年女子800m	優勝	西都児湯地区練成会弓道 1年女子個人の部	優勝
西都児湯地区中学校総合体育大会 陸上 共通男子400m	2位	西都児湯地区練成会弓道 1年男子個人の部	優勝
西都児湯地区中学校総合体育大会 陸上 2年女子100m	優勝	第81回東児湯剣道スポーツ少年団錬成大会 中学男子個人の部	優勝
西都児湯地区中学校総合体育大会 陸上 2年男子1500m	優勝	第1回 宮崎産業経営大学カップ〜タカヒラ秋の陣〜男子	優勝
第75回宮崎県中学校総合体育大会 柔道競技女子個人70kg級	2位	第70回青少年読書感想文コンクール	入選3名
第75回宮崎県中学校総合体育大会 柔道競技男子個人66kg級	3位	令和6年度宮崎県中学生デザイン・絵画グランプリ	芸術学科賞
第69回九州吹奏楽コンクール宮崎支部予選	銅賞	令和6年度宮崎県中学生デザイン・絵画グランプリ	最優秀賞
地区秋季 バドミントン競技 女子シングルス	2位	第34回宮日中学生英語部唱大会	努力賞
地区秋季 バドミントン競技 男子シングルス	優勝	第68回 東児湯英語部唱・弁論大会	優秀賞
地区秋季 バドミントン競技 女子団体	3位	第27回創造アイデアロボットコンテスト宮崎県中学生大会	優勝
地区秋季 バドミントン競技 男子団体	優勝	第28回創造アイデアロボットコンテスト宮崎県中学生大会	ロボコン大賞
地区秋季 バスケットボール競技 男子	3位		

今回ご紹介した表彰以外にも、多くの生徒が各種検定試験での合格や、4位・5位などの入賞により表彰されています。都農中学校の生徒の皆さんが日々積み重ねてきた努力と情熱が、このような形で高く評価されたことを、私たちも心から誇りに思います。また、その努力と成果は、保護者の方々をはじめ、たくさんの方々に希望や勇気を届けており、心より深い敬意を表します。

承認欲求を通じて得られた貢献感には、自由がなく、必要がありません。(心理学者：アルフレッド・アドラー「嫌われる勇気」より)



令和7年が始まりました。今年もどうぞよろしくお願いいたします。

さて、世界においては、戦争の終結が見えず、日本においても地震や豪雨等の災害が相変わらず不安な毎日です。闇バイトや交通事故等、日本人のモラルが低下しているのではと心配になることもあります。令和7年も、その事実を忘れずに、いま私たちが得ることのできている平和や安心をかみしめて、毎日を意義深く過ごしていきたいと思います。

## 生成 AI

生成 AI（ChatGPT、Gemini 等）は人間の能力を拡張し、単に知覚するだけでなく、論理的に考えて解答を示すレベルに達しています。都農中学校の職員は、この生成 AI を校務で利活用しています。利活用する際には、提供者の最新の利用規約に従うと共に、生成 AI がもつハルシネーション（事実に基づかない情報を生み出す現象）やバイアス（偏りや偏見）を考慮して出力内容の適切性を見極めるようにしています。また、個人情報を入力しない、著作権を侵害する使い方を避ける等、文部科学省のガイドラインに沿って使用しています。

生成 AI は、授業準備、生徒指導等の支援、授業で取り扱う教材や確認テスト問題のたたき台作成、保護者案内文・職員会等文書・PTA関係文書のたたき台作成等、あらゆる場面で利活用でき、それにより仕事の効率が劇的に改善されます。そのため、生成 AI を使えるようになることは、教師にとって重要な資質・能力になってきました。

なお、都農中学校においては、授業等で生徒に使わせるまでには至っていません。生成 AI を生徒に利活用させるまでには、文部科学省が示した指針等をもとに、生徒の発達段階や情報活用能力の育成状況に留意した使い方を明らかにすること、生徒に生成 AI の性質やメリット・デメリットを理解させること、情報の真偽を確かめる生徒の判断力を育むこと等が必要となります。教師がガイドラインに沿って、生徒にどのような場面で利活用させるかを共通理解することも重要です。これらの課題をクリアしたのちに、都農中学校でも授業で利用することになると思います。

都農中学校においては、今後も、生徒の教育効果の向上、教員の負担軽減に向けて、生成 AI の利活用を推進していきます。

## レジリエンス

誰もが生きる中で多くの困難や失敗、恐怖に直面します。中には戦争や貧困、病気等の厳しい状況で生活しなければならない人々もいます。レジリエンスは、こうした困難な体験や環境に適応したり、回復したりする力のことを指します。レジリエンスがあれば、時にはストレスを糧にしてさらに成長することもあります。

“最近の子供たちは打たれ弱い”という話をよく聞きます。小さな問題やプレッシャーに過剰に反応する子ども、簡単に不安やストレスを感じる子ども、失敗や失望から立ち直るのが遅い子ども、何か新しいことを始めても困難が生じるとすぐに努力を止める子ども等、増えてきたように感じます。困難に立ち向かい、それを乗り越えるレジリエンスを育てる教育が大切です。

レジリエンスを育てるには、どうすればよいのでしょうか。プリンストン大学の Brooks 氏とユタ大学の Goldstein 氏によれば、次の7つのポイントが提唱されています。

- 子どもの話に共感する。
- 子どもの話に真に耳を傾ける。
- 子どもの魅力に気づき尊重する。
- 子どもの長所を見つけ励ましサポートする。
- 子どもの失敗を学びに変える。次回はもっとうまくできるようにする。
- 責任感を育てる。
- 問題に対処する方法を示し模範を示して励ます。

また、お茶の水女子大学の岐部智恵子氏は、次のように述べています。

- 標準と比較したり、他の子と比較したりするよりも、個人がどのように発達したかに注目する。
- 失敗経験を子どもと親（教師）とで共有する。
- 安全な環境の中で小さな失敗を繰り返す。失敗を認め合う家庭や学校にする。

他にも、様々な研究者が、レジリエンスを育てるために何が大切であるか、どのような方策があるかを提唱していますが、総じて、子どもの思いに気づき、愛情のある言葉や身体表現で、子どもの考えや気持ちをできるだけ充足させてあげようとするのが大切なようです。甘やかしではなく、困難や失敗に共感し、共に乗り越えていくよう支援する態度が大切なようです。

教育は何のためにするのかという問いに対し、OECD や文部科学省は、ウェルビーイング（自分の人生に満足し生きる意義を感じる状態）を実現するためであると答えています。しかし、当然ながら、悪いこともあれば、良いこともあるというのが人生です。困難を乗り越えるレジリエンスを教育や子育ての中で育むことは、私たちがウェルビーイングを実現するうえでも重要です。

都農中学校は、レジリエンスを育む教育も大切にしていきたいと考えます。

自分にはできると信じれば、あなたはもう道半ばまで来ている。（アメリカ合衆国第26 大統領：セオドア・ルーズベルト）

やったことは、例え失敗しても、20 年後には、笑い話にできる。しかし、やらなかったことは、20 年後には、後悔するだけだ。

（作家、小説家：マーク・トウェイン）

いよいよ、令和6年度もあと2か月です。3年生は、受験真只中。1、2年生も次年度に向けての準備が着々と進んでいます。学校の様子を随時Instagramにアップしていますので右の二次元コードからのアクセスもお願いいたします。



## 成瀬あかり

一昔前、ニーチェの哲学がブームになりました。ニーチェの哲学の中で有名な概念の一つが「超人」です。ニーチェによると、超人は従来の価値観に縛られず、自己の価値を創造し、自己実現を追求する存在です。この超人は、既存の他人の評価に影響されことなく、自身の理想を実現することを目指します。超人は、自己の力で自己を超えることを求め、人生を積極的に肯定する姿勢をもちます。

多くの人々は社会的な比較や他者の意見を参考にしながら自己を形成していきます。例えば、「あんな人になりたい」「あんな生き方はしたくない」と考えながら、自分の行動や価値観を調整していきます。しかし、ニーチェが描く超人は、こうした外部からの影響を超え、独自の価値を追求することに重点を置いています。超人は、既成の枠を超えて自らの道を切り開き、自己実現を目指す存在です。

このような超人になることは、誰にとっても容易なことではありません。といいますか、ほぼ不可能なのですが、それでもニーチェの哲学は、自分を超えていこう、前向きに人生を生きていこうという勇気を与えてくれます。

ところで、作家である宮島未奈さんが本屋大賞を受賞した作品「成瀬は天下を取りにいく」、また、続編「成瀬は信じた道を行く」は、令和6年、多くの人に読まれた本です。本の内容は、主人公である“成瀬あかり”という女子をめぐる青春物語（フィクション）です。ほとんどのストーリーは成瀬本人ではなく、成瀬に関わる人たちの視点で語られています。成瀬は「自分はありのままがいい」と認め、常に、自分のやりたいことを見つけ一歩どころか、千歩も万歩も自分が納得いくまで前に突き進みます。だからと言って人の迷惑になるようなことはしません。例えば、髪の毛が高校に入学してから卒業するまでにどれくらい伸びるかを調べるために、丸刈りで高校の入学式に現れたり、友人を引き込んで、M-1（漫才コンクール）に出場したりします。成瀬は、うまく結果を出すこともありますが、どちらかというと、うまくいかないことの方が多いです。M-1もずっと1回戦で敗退します。しかし、失敗しても、怒ったり、悔しがったり、落ち込んだりしません。失敗を恐れません。成瀬は、人に影響を受けず、いつも自分が信じた道を突き進みます。ですが、成瀬に触発されて、周りの人たちは変わっていきます。自分のやりたいことを徹底して追求している変わり者の成瀬の輝きに気付いていきます。周囲の評価や親の期待ではなく、自分の人生を主体的に生きていくマインドをもつことの大切さに気付いていきます。

本を読みながら、成瀬の、やりたいことを見つけたら、人の目をほとんど気にせず、徹底して実行に移す姿に、超人の入り口を垣間見ることができました。「子どもには自分の好きなことを見つけて生きてほしい。」どの親も、どの教員も、一度は口にしたことのある言葉ではないかと思います。フィクションとはいえ、成瀬の生き方に触れながら、その言葉に「たとえ失敗したとしても」「人から笑われたとしても」という言葉を付け足したいと強く思いました。

## 学校の役割

OECDの調査によれば、特に日本の小中学校の先生方は、他の先進国と比較しても異例の勤務時間に見舞われています。この問題に対する改善の動きは遅々として進まず、現在、多くの教員が限界に近い状態にあるというのが実情です。業務の重圧は日々教員の肩にのしかかり、生徒指導や保護者対応の困難さ等も重なり、精神的な疾患を患う教員が年々増えています。“小学校や中学校の先生になりたい”人が減ってきており、人手が足りない状況が続いています。都農中学校も、生徒数や授業時数等から、本来であれば、もう一人教員が配属されてもよい状況でしたが、残念ながら、補充できないまま令和6年度の業務をこなしています。このような状況は、都農中だけでなく、どの学校でも起こっており、常態化しています。

多くの教育研究家が、学校と教員の役割を明確にすることで、教員の負担をどう軽減できるかを考えるべきだと論じています。例えば、給食指導は、小学校や中学校での教員にとってかなりの負担となる業務です。等しくおかずを配り、残食が出でないようにして、時間内に給食指導を終わらせるだけでも大変ですが、誤飲やアレルギー対応、やけどのリスクなど、生徒の安全が直接関わる問題を扱うため、極めて注意が必要です。児童生徒にとって給食時は楽しいひとときである反面、多くのリスクも伴います。しかしながら、給食指導は教員免許を必要としないため、教員でなくても対応可能です。教員の負担を軽減し、教育に集中できるよう、この業務を外部に委託することもできなくはありません。このような議論を通して、働き方改革の進展が見られるものの、根本的な問題解決には至っていません。

多くのマスメディアが報じているように、文部科学省は小中学校の授業時間を現行の小学校45分、中学校50分からそれぞれ40分と45分に短縮する案を検討しています。この提案に対し、教員の間からは、単に時間を減らすだけでなく、教育の質を向上させる必要があるという意見も挙がっています。教員の仕事が教室外にも広がっている現状に対して、改善を求める声が聞かれます。

教育現場の第一線で戦う教員の心と身体の負担を減らすことは、ただの労働問題ではなく、教員がもつ教育への情熱を支え、子どもたちへの愛情を保つためにも必要不可欠です。これからも教育課程や学習指導要領の議論において、教員の声に耳を傾け、教員が教育に専念できる環境を整えることが求められます。

現在、次期学習指導要領の改訂が議論されています。授業や各教科の細かな部分の改訂や学習評価の方法などに終始せず、そもそも「学校はどこまで何をするのか」という議論もさらに深められていくことになるのではないかと思います。

- ・先のことはわからないからなんとも言えないが…。何になるかより、何をやるかのほうが大事だと思っている。
- ・たくさん種をまいて、ひとつでも花が咲けばいい。花が咲かなかつたとしても、挑戦した経験はすべて肥やしになる。
- ・大きなこと百個言って、ひとつでも叶えたら「あの人すごい」になる。だから日頃から口に出して種をまいておくことが重要なのだ。

成瀬あかり



いよいよ、3年生は、あと1か月足らずで卒業となります。1、2年生は、なんとなく落ち着かない様子です。都農中インスタグラムもどうぞよろしくお願いいたします。

都農中インスタグラムの2次元コードです。



## SNS

子どもがSNSを利用することによる心身への悪影響や犯罪被害の増加が懸念されており、世界各国で年齢制限や利用時間の制限などの法的措置が導入されています。オーストラリアでは、16歳未満のSNS利用を禁止する法案が可決され、2025年に施行予定です。この法律により、SNS運営企業は16歳未満のユーザーがアカウントを作成できないよう対策を講じる義務があり、違反した場合は多額の罰金が科されます。(ニューズウィーク日本版より) その他にも、アメリカでは、フロリダ州が14歳未満のSNSアカウント取得を禁止する法案を可決しました。ニューヨーク州では、2024年6月に18歳未満のユーザーに対し、深夜0時から朝6時までの間、保護者の同意がない限り通知を停止することや、未成年者へのアルゴリズムによる自動フィードの送信を禁止する法案が可決されました。

一方、日本では子どものSNS利用が広がる中、規制に関する明確な法的措置はまだ導入されていません。子ども家庭庁の調査によれば、小学生の約70%がスマートフォンを所有しており、SNSや動画視聴、検索、音楽などを利用する割合は8割を超えています。また、SNSをきっかけとした性犯罪被害に遭う子どもが増加しており、特に小学生の被害は10年前の5倍に達しています。

本校の3年生の1クラスを対象にした調査では、100%の生徒がSNSを利用していることが明らかになりました。SNSの種類別では、LINEの利用率が100%、TikTokが91%、Instagramが87%となっています。2022年11月時点で全国の中学生のSNS利用率は88%とされており、主要なSNSの利用率はLINEが85%、TikTokが48%、Instagramが42%となっています。このデータと比較すると、本校の生徒のSNS利用率は全国平均よりも高いことが分かります。

これを受けて、3年生で「SNSの使い方を考えよう」という授業を行い、生徒の皆さんに情報モラルの確認や、犯罪の被害者にならないためのポイントなどを学んでもらいました。しかしながら、学校は家庭での使用状況を監督することができないため、最終的には家庭の教育力に頼らざるを得ません。

生徒の皆さんには、SNSの悪影響を受けることなく、その利点を活かし、豊かな社会生活を送ってほしいと願っています。

## 教員のストレス

パーソル総合研究所の調査(教員の職業生活に関する定量調査)によると、教員の約20%が仕事にやりがいを感じておらず、強いストレスを抱えていることが明らかになっています。特に20代の教員では、その割合が約30%と高くなっています。この数値は、強いストレスの影響で十分に仕事を遂行することが困難な教員の割合を示しているとも考えられます。さらに、文部科学省の2022年の調査によると、実際に、精神疾患で病気休職した公立学校の教員は6,539人で、1カ月以上の病気休暇取得者を含めると、合計で1万2,192人に上ります。また、ストレスによりうつ病を経験したことがある教員は、相当数いることが明らかにされています。

教員のストレスは、次のような状況で生じています。

1. 生徒指導の負担・・・問題行動を起こす生徒への対応。いじめ、不登校への対応。生徒を叱ることで生じる人間関係の悪化。
2. 地域や保護者対応・・・クレームや過剰な要求をする保護者や地域への対応。保護者とのコミュニケーションの難しさ。
3. 過重労働・・・授業、部活動、事務作業、保護者対応など多岐にわたる業務状況。休日や勤務時間外の業務過多。
4. 社会の理解不足・・・「教師は楽な仕事」という誤解や偏見。SNSでの批判や誹謗中傷。教育現場の現実と社会の期待のギャップ。生徒の問題行動を学校の責任にされる社会状況。
5. 教育方針の変化・・・文部科学省や自治体の方針変更。新しい制度やカリキュラム変更への対応。ICT活用など新しい技術の導入による負担。
6. 部活動の負担・・・指導者不足の中で専門知識がない競技を担当することになる状況。休日の試合や遠征に時間を取られる状況。

等

上記のストレスの原因となる状況は、どの学校にも存在します。確かに、都農中学校は過去の生徒指導が困難とされた時代から大きく変わりましたが、ストレスを生む要因が完全になくなったわけではありません。時代ごとに異なるストレス要因が生まれ続けています。日本全国で働き方改革が進められていますが、その効果は限定的であり、教育現場におけるストレスが大幅に減ることはありません。

ストレス問題は、学校だけでなく、社会全体で進めていく必要があります。業務の分担と効率化、ストレスケア、支援体制の強化、制度改革、社会の意識改革等に学校や社会が連携して取り組む必要があります。

すぐに解決できるものではありませんが、小さな取組を積み重ね、生徒や保護者だけでなく、教員にとっても安心して過ごせる学校をつくっていく努力をしていかなければ、日本の教育は持続できないということは言うまでもないことです。教育だけでなく、ほかの業種においても同様であろうと思います。

今後も、都農中学校が、生徒にとっても、保護者にとっても、教師にとっても過ごしやすい学校になるよう努力していきたいと思っています。

・角を曲がった先に何があるかはわからない。ありとあらゆるものが存在するかもしれないし、何もなかったかもしれない。それでも1歩ずつ前に進み続けていけば、ある日ふと振り返ったときに山を1つ越えたことに気づく。 トム・ヒドルストン(俳優)

・積小為大(せきしょういだい) 大きな事をしたいと思えば、小さな事を怠らず勤めるがよい。それは小が積って大となるからだ。 二宮尊徳(江戸時代後期の思想家)

いよいよ3年生は、3月16日に卒業を迎えます。夢や希望を胸に、新たな人生を力強く歩んでほしいと願っています。

## 学校づくりアンケート

都農中Instagramの2次元コードです。



生徒・保護者・教師を対象に、学校づくりに関するアンケートを実施いたしました。アンケートの設問内容につきましては、左側の二次元コードからご確認ください。

アンケートの分析結果は以下のとおりです。ここでは、課題として挙げられる点をご紹介します。

- 教師が考える生徒像（生徒に到達してほしい目標値）が、生徒と保護者にうまく伝わっていない。それにより、生徒や保護者が設定する目標値が低い。
- 生徒について、自分の考えをうまくまとめて表現する力が十分に育成されていない。
- 目標設定と計画の可視化、時間管理と習慣形成、生活の振り返りと改善を推進するためのフォーサイト手帳を活用できていない。つまり、生徒に時間を有効に使う力、計画を立てる力、生活を振り返って見直す習慣や実行力が十分に育成されていない。
- 家庭学習が不十分であり、学力もまだ伸びる要素があるが、その意識が生徒において低い。

これを受けて、都農中学校では次のような改善を図りたいと考えています。

### 1 フィードバックと指導の強化

生徒に対し、具体的かつ実行可能なアドバイスを提供する機会を増やす。三者面談や教育相談において、教師の考えを明確に伝え、指導の質を向上させる。

### 2 コミュニケーションの向上と理解の促進

生徒、保護者、教師間のコミュニケーションを強化し、各立場の期待や目標への理解を深める。また、生徒が自己の目標や振り返りを行う場を設け、それを共有することで、相互理解を促進する。

### 3 キャリア教育の推進

生徒が将来について考え、計画を立てられるよう、キャリア教育を充実させる。目標達成に向けた計画の立案や時間管理のスキルを指導する授業を実施し、主体的な進路選択を支援する。

### 4 デジタルツールの活用

フォーサイト手帳の活用を推進する。ノート型の手帳に加え、クラウドサービスを活用したデジタルツールを導入し、生徒が柔軟に日々の記録を管理できるようにする。さらに、生徒の学習活動や生活習慣の記録を教師や保護者が閲覧し、フィードバックを行う場を意図的に設定する。

### 5 文章表現の機会の設定とフィードバックの強化

生徒が自分の考えを文章で表現する機会を設け、適切に評価し、フィードバックを行う。指導の効率化を図るため、AIを活用し、生徒自身が随時評価を受けられる仕組みを導入する。具体的には、AIに文章や音声を入力し、評価を受けたうえで再度修正を行う取組を実施する。

### 6 主体的学習の促進と確認

オンライン学習サービスを活用した主体的な学習を推進する。教師や保護者も生徒の学習進度や成果を随時確認し、自宅学習や基礎基本の習熟を充実させる。

### 7 情報発信の推進

学校通信「桜梅桃李」やInstagramを活用し、学校の活動や方針、生徒の取り組みを随時発信する。保護者への情報提供を継続し、学校と家庭の連携を強化する。

### 8 保護者の家庭学習に対する意識の醸成

家庭学習の充実を図るため、家庭教育学級においてワークショップや情報提供の場を設け、保護者の意識向上を図る。

### 9 校時程の見直し

現在の校時程を見直し、補充学習の時間をさらに増やす。

なお、アンケートで生徒の良い点もたくさん見つけることができました。例えば「学校や地域に貢献しようとしている生徒が多い」「学校の行事に自分から進んで取り組んでいる生徒が多い」「相手の考えを大切にしながら生活している生徒が多い」「みんなと協力して学習や行事に取り組んでいる生徒が多い」等、その数は10を越えます。詳しくは、右の二次元コードから本校のホームページにある「令和6年度・学校評価報告」をご覧ください。



今後も、都農中学校の生徒の皆さんがさらに成長できるよう、全職員が一丸となって改善点を見出し尽力してまいります。ご理解とご協力のほど、よろしくお願い申し上げます。

## お礼

「桜梅桃李」は、今年度最後の発行となります。これまで、ホームページやInstagramでは伝えきれない、学校が大切にしていることや、これからどのような学校を目指していくのかについて、その一端をお伝えしてまいりました。至らぬ点多々あったかと存じますが、ご愛読いただきましたことに、心より感謝申し上げます。来年度も変わらぬご支援とご愛読を賜りますよう、よろしくお願い申し上げます。